



会期 令和3(2021)年

10月8日(金)～12月5日(日)

まもなく開幕！

会期中無休

開館時間 9:00～17:00

※金曜日は19:00まで、
入場は閉館の30分前まで
※10月8日(金)は10:00開場

料金 一般 1400円
高・大学生 1000円
小・中学生 700円

※前売・20名以上の団体は200円引き



- JR広島駅より約1km ●広島城より約400m
- 市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白島線で「縮景園前」下車20m
- ひろしまめいぶる～ぶ(市内循環バス、JR広島駅新幹線口のりば発着)「県立美術館前」下車(白島線沿い)



公式Instagram

広島県立美術館
Hiroshima Prefectural Art Museum

【開催趣旨】

今からおよそ400年前に生まれ、その多彩なデザインと技術の高さにより、世界各地の人々を魅了した伊万里焼。中でも17世紀後半に完成した繊細優美な柿右衛門様式と絢爛豪華な金襴手様式の作品は、ヨーロッパ王侯貴族の間で絶大な人気を博し、宮殿や邸宅に飾られました。

本展では、ドイツの名窯マイセンの創始者で、熱狂的な磁器コレクターでもあったザクセン選帝侯アウグスト強王（在位1697-1733）の旧蔵品2点を含む輸出用古伊万里を中心に、草創期から最盛期、さらに近年再評価されている幕末明治期までを約135件により紹介します。



《色絵花籠文八角大壺》1700～1730年代 佐賀県立九州陶磁文化館

輸出先のヨーロッパで金細工が施された、高さ50cmを超える金襴手様式の大壺。染付素地に色絵の赤と金で装飾された豪華な意匠の壺は、対で飾るとさらに見ごたえがあり、ヨーロッパの王侯貴族を満足させたことでしょう。

【展覧会の構成】

第1章 磁器の誕生、色絵の始まり

17世紀初頭に日本初の磁器として誕生した伊万里焼は、17世紀中頃に色絵を成功させ多彩色へと発展していきます。中国、朝鮮の技術を導入しつつ、産地一体となって革新を遂げていくさまを紹介します。



佐賀県重要文化財《染付山水文水指》1610～1630年代 佐賀県立九州陶磁文化館

初期伊万里の中でも最初期の作品。呉須の発色も非常によく、藍色の濃淡で岩の遠近感を巧みに表現した優品。



《色絵菊文輪花大皿》1650年代 佐賀県立九州陶磁文化館

器面全体を寒色系の色絵具で塗りつぶす青手と呼ばれる様式の大皿。側面を指で押して歪ませたユニークな形も見どころ。

第2章 輸出時代の幕開け

伊万里焼の生産体制が整い始めた頃、世界の磁器市場をほぼ独占していた中国磁器の輸出が明末清初の動乱によりストップし、これを機に海外市場へと進出します。オランダ東インド会社などによって運ばれた海外向け製品を紹介します。



調味料入れ4種とそのトレーのセット。それぞれ形状が少しずつ異なり、蓋に穴をあけたものはコショウなどの粉末、スプーンをかけるくぼみをつけた器はマスタード、注ぎ口のあるものは油や酢などの液体調味料を入れたと考えられます。

《染付草花文調味料入揃物》1670～1700年代 佐賀県立九州陶磁文化館 柴田夫妻コレクション

第3章 世界的名窯への道 柿右衛門様式と金襴手様式

ヨーロッパに輸出された磁器の中でも特に人気を博したのが1670-90年代に完成した柿右衛門様式です。続く元禄時代に主流となる金襴手様式とあわせて、日本磁器の最高峰とも称されます。ザクセン選帝侯アウグスト強王の旧蔵品など、ヨーロッパの王侯貴族を魅了した作品を紹介します。



口縁をゆるやかな丸みを持つ五弁の輪花状にした柿右衛門様式の鉢。ヨーロッパ最大の陶磁器収集家であったザクセン選帝侯アウグスト強王の旧蔵品であったことを示す記号「N:3□」が底に刻まれています。

重要文化財《色絵花卉文輪花鉢》17世紀後半 広島県立美術館



《色絵仔犬置物》1670～1710年代 佐賀県立九州陶磁文化館

愛らしい表情の仔犬をかたどった柿右衛門様式の置物。類似の犬置物が、海外ではイギリスのバーレイハウスに所蔵されていることが知られています。



《色絵桜樹文耳付注器》1700～1730年代 佐賀県立九州陶磁文化館

コーヒーポットとして用いられたと考えられる作品。下部には金属製の蛇口が付いています。両脇の把手の上端には人の頭が外向きに付けられ、当時のヨーロッパの装飾趣味が感じられます。



《色絵甕割唐子文八角皿》1670～1690年代 佐賀県立九州陶磁文化館 柴田夫妻コレクション

北宋の政治家、学者であった司馬光が幼時、水甕の中に落ちた子供を助けるため石を投げて高価な甕を割り命を救ったという中国の故事に取材した文様が描かれています。柿右衛門様式の代表的な意匠で、ヨーロッパで人気を博しました。



《色絵甕割唐子文八角皿》18世紀後半 佐賀県立九州陶磁文化館

イギリスのチェルシー窯で作られた作品。八角形の器形も含め、柿右衛門様式を忠実に写しています。

柿右衛門様式に代わって1690年代に新たに登場した金欄手様式は、赤と金を多用する色絵磁器。本作は赤・薄赤・金のほか緑・紫が使われており、多色で豪華に彩られた上質の大皿です。

《色絵花盆文大皿》1690～1720年代 佐賀県立九州陶磁文化館 柴澤コレクション



第4章 輸出時代の終わり 国内市場の拡大

中国の動乱が収まり中国磁器が世界市場に戻ると、次第に伊万里焼の輸出は減退し、代わって国内市場の拡大に努めます。北前船などによって各地に運ばれた国内向け製品を紹介します。

金彩を多用した高級感ある碗。蓋付碗は18世紀中頃から量産されるようになりました。

《色絵栗文蓋付碗》1740～1760年代 佐賀県立九州陶磁文化館 柴澤コレクション



第5章 ふたたび、世界へ 博覧会の時代

約100年間の中断を経て、幕末の19世紀半ばには再び海外市場へと進出を果たした伊万里焼。万博での成功により名声は世界へと周知されました。欧米好みの和洋折衷デザインの製品や、西洋の技術を導入した製品を紹介します。

明治時代に欧米向けに作られた高さ90cmに及ぶ一対の大花瓶。鳳凰が対となるデザインで描かれています。



《色絵亀甲割鳳凰文大花瓶》1870～1880年代 佐賀県立九州陶磁文化館(南里裕美子氏寄贈)

【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用は御遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。御了承ください。

※画像については提供が可能です。画像掲載の際には、当館までお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館まで御提出いただき、1週間程度お時間を頂戴いたします。

【関連イベント】

記念講演会(共催:広島県立美術館友の会)

テーマ:「世界に羽ばたいた古伊万里—江戸から明治へ—」

講師:大橋康二(佐賀県立九州陶磁文化館名誉顧問)

日時:10月9日(土)13:30~15:00 [開場13:00]

場所:地階講堂

※聴講無料、要事前申込(TEL.082-221-6246)

美術講座

テーマ:「古伊万里の魅力」

日時:11月3日(水・祝)13:30~15:00 [開場13:00]

講師:岡地智子(当館学芸員)

場所:地階講堂

※聴講無料、要事前申込(TEL.082-221-6246)

学芸員によるスライドトーク

日時:10月22日(金)、11月12日(金)、11月19日(金)、12月3日(金) 各日 11:00~、17:00~

所要時間:約30分

場所:地階講堂

※聴講無料、要事前申込(TEL.082-221-6246)

インスタライブ配信

当館公式インスタグラムからギャラリートークを配信

日時:10月26日(火)17:00~、11月16日(火)17:00~



公式インスタグラム

有田焼 絵付け体験

あなたのオリジナルデザインで絵付けをしてみませんか?

※詳細は当館ホームページをご覧ください。

※要参加費、要事前申込(TEL.082-221-6246)

press release

Old Imari
はるかなる
古伊万里
400年の物語

【お気に入りを見つけてシェア！】

展覧会会場では、一部作品の撮影が可能です。

※作品保護等のため、撮影時の注意事項をお守りください



【伊万里焼でティータイム！】

期 間：10月8日(金)～11月7日(日)

場 所：3階ティールーム

※数量限定



特別メニュー

佐賀県のトンバイ塀や有田焼のお皿がそのままお菓子になりました！

有田焼のカップと一緒にティータイムはいかがですか？

※お菓子は3階グッズ売場でもご購入いただけます。

有田焼・ティーセット 750円



佐賀県から取り寄せた28種のスパイスを使った薬膳カレーにチーズと温野菜をトッピング！スタッフおすすめの一品です。※カレーは3階グッズ売場でもご購入いただけます。

有田焼・カレー(コンソメスープ付き) 1,300円



【有田から直送！陶器販売】

佐賀県有田の陶器販売業者8社が出店し、陶器の販売を行います。

場所：3階グッズ売り場

【県美×ひろ美 相互割引】

「はるかなる古伊万里 400年の物語」の会期中、2館で相互割引を実施！

下記の特別展チケット(半券可)を受付に提示いただくと、本展当日料金より100円割引。

詳しくは各館にお問い合わせください。

※1枚につき1名様限り、他の割引との併用はできません。

ひろしま美術館 (中区基町3-2[中央公園内] / TEL 082-223-2530)

シダネルとマルタン展(仮称)

2021年9月11日(土)～10月24日(日)

【縮景園連携】

ワンコイン縮景園 本展入館券の提示により、100円で縮景園に入園いただけます。

【開催概要】

メインタイトル：はるかなる古伊万里 400年の物語

英語名：Old Imari - A Story of 400 Years

会期：令和3年10月8日(金)～12月5日(日) 会期中無休

開館時間：午前9時～午後5時(金曜日は午後7時まで)

※10月8日は午前10時から ※入場は閉館の30分前まで

料金：一般 1,400円 高・大学生1,000円 小・中学生700円

※前売り・20名以上の団体は当日料金より200円引き

※学生券を購入・入場の際は学生証の提示をお願いします。

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳及び戦傷病者手帳の所持者と介助者(1名まで)の当日料金は半額です。手帳を提示ください。

前売券販売所：広島県立美術館、セブンチケット(セブンコード:090098)、ローソンチケット(Lコード:61713)、チケットひあ(Pコード:685-715)、ファミリーマート、RCCオンラインチケット、広島市・呉市内の主なプレイガイド、画廊・画材店、ゆめタウン広島、中国新聞社読者広報部などで販売しています。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開館情報に変更の生じる場合がございます。最新情報は広島県立美術館(電話・HP・SNS)まで

開催クレジット

主催：広島県立美術館／中国放送／イズミテクノ／中国新聞社

後援：広島テレビ／広島ホームテレビ／テレビ新広島／広島エフエム放送／FMちゅーピー76.6MHz／エフエムふくやま／尾道エフエム放送／FMはつかいち76.1MHz／FM東広島89.7MHz

協賛：大和証券／大田鋼管／広島県信用組合／一般財団法人ケンシン地域振興財団

助成：公益財団法人花王芸術・科学財団

特別協力：佐賀県立九州陶磁文化館

問い合わせ先：広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail：iroeuma2@gmail.com

担当：学芸課 岡地智子

広報担当：総務課 一色直香、弘津かおる

来館の皆さまへ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、以下の対策を行っています。御理解と御協力をお願いします。

- 次に該当するお客様は、入館を御遠慮ください。
 - ・発熱や、軽度であっても咳・のどの痛みなどの症状があるなど体調の悪い方
- 協力をお願いします
 - ・正しいマスクの着用、手指のアルコール消毒、咳エチケット
 - ・会話は控えめにし、特に大声での会話は行わないでください。
 - ・人と人との接触を避けるため、できるだけ1mの距離を空けてください。
 - ・来館者が多い場合は、入場制限を行う場合がございます。